

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200809		
法人名	株式会社 ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ケアクオリティゆとりあ		
所在地	静岡県静岡市葵区田町3丁目30-1		
自己評価作成日	令和元年 10月 31日	評価結果市町村受理日	令和元年 12月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が穏やかで不安の無い日々を送られるよう、スタッフ一丸となって努力しています。利用者様の情緒の安定やストレスの軽減を目的に、音楽や回想法を活用しています。個々の能力アップは勿論、あくまでチームケアであることを念頭に、バランスのとれたサービス提供とその水準の向上を目的として、毎月施設内研修を行いスタッフのレベルアップ・意識の改善に努めています。

外部研修にも積極的に職員が参加できるように、情報提供と便宜を図っております。地域運営推進会議、地区社協主催の「田町学区ふれあい祭り」や地域行事の夏祭り・敬老会などへの参加を通して、近隣住民との交流を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内の夏祭りに職員5人と利用者14名が参加し、学区の祭りにも模擬店を出し職員3人と利用者10名が参加している。中学生と高校生の職場体験の受入れも行う等、地域とのふれあいを深めている。その結果、地域住民の見学が増え地域出身の利用者も増加している。協力医と主治医による月2回の訪問診療と週1回の訪問看護があり、24時間対応の医療連携が組まれている。管理者は就任後まだ1年であるが当該事業所での経験は長く、現場をよく把握している。チームワークが良い職員と共に「ゆとりある温かい家族の様なホーム」を目標に介護水準の向上と意識の改善に努めており、利用者は温かい雰囲気の中でゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時オリエンテーションや会議等で理念に触れ、共通意識が持てるようにしている。	理念を玄関に掲示し、年4回開催の全体会議や毎月開催のユニット会議、また申し送り時に職員が確認し合い共有を進めている。地域の人達と触れ合いながら「ゆとりある温かい家族の様なホーム」の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの手伝いや敬老会等への参加、フラダンスボランティアや学生の職場体験の受け入れを行い、馴染みの関係の構築に努めている。	町内の夏祭りに職員5人と利用者14名、学区の祭りに模擬店を出し職員3人と利用者10名がそれぞれ参加し、中学生と高校生の職場体験も受入れている。地域住民の見学が増加し、地域出身の利用者も増加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常行っている散歩・買い物・近隣での外食、ボランティア・実習生・見学者の来訪等で認知症の人の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、施設の現状報告をすると共に、外部の方の意見や違った角度からの見方を知り役立てている。	原則偶数月の第3木曜日に開催し、自治会長や民生委員、地域包括支援センター等の参加がある。家族の参加が少ないが、会議内容は月次報告に掲載し家族に連絡している。参加者から高齢者介護の制度の紹介等がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月生活相談員の訪問があり、生活保護の利用者様もいるため、定期的な面会も行われている。	介護保険課に運営推進会議議事録と防災訓練実施報告を毎回届け、必要時に随時相談を行っている。生活保護入居者の関係で、生活支援課の来訪が年1～2回ある。市介護相談員の来訪時には利用者の状況報告等がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」宣言を行い、玄関の施錠はせず自由に出入りできるようにしている。内部研修や外部研修等への参加で、職員全員が共通理解し実践に取り組んでいる。	研修と委員会を3ヶ月に1回必ず開催し、全職員対象のアンケートも3ヶ月に1回実施している。スピーチロックの根絶を目指し、職員同士が馴れ合いにならずに互いに注意し合える雰囲気作りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に施設内研修を行い、虐待についての理解を深め、安心して生活を送って頂けるよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等で学んでいるが、機会は多くなく理解度は低いと言わざるを得ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族や利用者様に十分な説明を行い、不安や要望を聞き理解や納得に繋げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日頃の関わりを大切に、ご家族の面会時には話しやすい雰囲気づくりに留意し十分な説明や意見交換を行い、運営に活かすよう努めている。	遠方在住の家族以外は来訪回数も多く、その度に意見や要望を聞いている。家族が話し易いように居室でお茶を飲みながら面談することもある。遠方の家族には、年2回の面会時に聞いたり随時電話で確認したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時だけではなく、常日頃お互いに意見や疑問を言いやすい関係をつくり、職員の提案などを運営に反映している。	年4回開催する全体会議や毎月フロアごとに開催するカンファレンス、年2回実施の個人面接等で職員の意見や要望を積極的に聞き、運営に反映させている。利用者へのサービスや情報共有等について様々な意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年も定期昇給を倍増し、非常勤のベースアップも行い、人材確保・定着に努めている。資格手当も高く設定し、取得の意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも可能であれば勤務調整して参加してもらい、カンファレンス時に発表の場を設け、本人の自信や知識の共有に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や各種行事に参加し、交流を深め情報交換等を行い、もってサービス向上の一助としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情観察・積極的な声掛けにて傾聴・受容・共感に努め、本人の不安軽減に繋げ、職員間の情報共有も徹底させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には日常生活状況を伝えながら、家族等の不安・要望の把握に努め、月次報告書により定期的に様子を伝えて関係づくりを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談やプラン説明時に本人や家族等の求めているサービスを見極め、ケアに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話・家事を共にする中で、家族あるいは仲間のような安心して頂ける関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・御家族等双方から互いの話を聞き、相互の絆を尊重しながら面会時には接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や面会などを通して、これまで大切にしてきた関係が継続されるよう支援している。	散歩時に近所の住民と話したり、利用者と同年代の住民がお茶を飲みに来たりしている。家族同伴での毎週の夕食や1泊旅行、また墓参りに行く利用者やボランティアと将棋を楽しむ利用者もあり、それぞれを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を尊重しながら、関係を把握し孤立することのないよう、時には職員が橋渡しをしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された場合は電話で様子をうかがったり、御家族がホームを訪ねて下さることもあり相談には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実現困難な意向も真正面から否定することなく、なるべく要望に添えるようプランに反映したり、カンファレンス等で検討している。	管理者は毎朝利用者に挨拶を行う際に思いや意向を聞き取っている。職員が聞き取った場合は申し送りノートに記載し、口頭で共有している。毎日入浴したいとの思いに対し、数か月の議論を経て勤務シフトを調整し実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等から折に触れ聞き取りを行い、馴染みの暮らし方・生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りを中心に、職員同士の情報共有を図り現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人・家族等の意向、職員・ドクター・ナースから得た知見や連携をプランに反映させている。	介護支援専門員2名がアセスメントとモニタリングの各シートを基に計画を作成する。カンファレンスで職員からの情報集約と作成された計画の検証を行う。確定した計画はケースファイルに綴り共有している。家族への説明同意は面会時に行うことを基本として	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・支援日誌・申し送りノート・朝夕の申し送り等で情報を共有し、プランや日々のケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人に変化が有った時には家族等と必要に応じて面談したり、緊急カンファレンスを開き柔軟な支援を目指し努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方々や自治会役員の皆様とも交流し、地域資源の把握・活用をはかり御本人の暮らしに資するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、協力医との連携を説明し家族等に納得して頂いた上で受診・往診対応をしている。	協力医や主治医の訪問診療を受ける利用者が殆どである。専門医の受診は家族が行う事を原則とするが、事業所が代行する場合もある。週に1回訪問看護師の訪問があり、健康管理に加え主治医との連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護時に利用者様の健康状態や生活の様子を報告・相談し、指示や意見を聞いています。特変時にも対応してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に出向きDr・Nsと情報交換し、適切な治療と早期の退院受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携のもと、御家族の意向を汲み取りながら、御本人にとって何がベストかをカンファレンスで検討しつつ支援に取り組んでいる。	看取りを行う方針で末期がんの利用者も受入れている。例年6例ほどの実例があり、訪問医と訪問看護師が連携し対応している。年3回の研修に加え、看取りの都度状況に合わせた勉強会を実施している。また事後のアンケートを行い、反省と職員の心のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加した職員にはカンファレンスにて発表してもらい、知識等の共有を図っている。緊急時対応については度々訓練・申し合わせをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度防災訓練を実施し、誘導・通報・炊き出し等を訓練している。	洪水による浸水と地震をリスクとし、対応マニュアルやタイムラインが作成されている。台風19号では浸水に備え事前に2階への避難を実行した。備蓄として3日分の食料と水を確保し、水は近隣の井戸より提供される体制もある。	井戸水の提供や自治会長より施設防災への協力の申し出があるなど災害時に地域からの協力体制が築かれつつある。事業所の防災訓練に地域住民の参加を求めるなど、実効性のある体制の確立を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先達であることを認識しつつ、その人の好みや意向を考慮に入れて対応している。共同生活であるのでプライバシーの確保には気を付けている。	排泄や着替えの際には必ずドアを閉めて行っている。声掛けは周りに気付かれないような配慮を管理者が指導している。また入浴剤や湯温、集団レクリエーションへの参加など、選択する機会を増やすことで一人ひとりを尊重し個性を保つ工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるような対応・雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員数という絶対的な制約の中で、可能な限り利用者様本位に一日を過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時には好みの服を選んで頂き、声掛けを行いながら髪を整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の選定には利用者様の好みや季節感を考慮に入れている。特に片付けを中心に職員と共に出来る範囲で行っている。	献立は利用者の希望や食材状況により当日の担当職員が決定している。職員も食事に加わり、利用者の話も盛んで、アットホームな雰囲気が感じられた。外食や中庭を利用した流しそうめんなどのイベントも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を心掛け、特に水分においては必要量を確保できるように個人の状態、習慣も考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、御本人の状態に合わせ声掛け・一部介助・全介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや排泄表にて、排泄パターンや習慣を類推し、自立に向けた排泄支援を行っている。	トイレでの排泄を目指しており、排泄パターンのチェックや適時声掛けなどの支援を行っている。状況にもよるが夜間などは無理強いくることなく、利用者の希望や体調を考慮した支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・運動に重点を置き、医療連携の元、服薬にても予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各種制約の元ではありますが、出来るだけ御本人の希望に添えるように努力しています。	原則週3回の入浴が可能で、入浴の誘いを拒む利用者には声掛けや時間を工夫し、状況により日程変更を検討している。入浴剤は3種類から選択し、湯は入浴ごとに交換している。利用者は満足するまで湯に浸かり、職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況や普段の習慣に合わせて、日中においてもお休み頂き、夜間は安眠できる環境作りを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方・説明書には目を通し、必要な情報の共有に努め、変更時には観察と医療への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や御家族等との話の中で嗜好や傾向を類推し、楽しみごとや気分転換等の支援を検討実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日とはいかないが、散歩等は支援している。地域の行事への参加、季節ごとの外出支援・外食は実施している。	近隣の公園に週2～3回程度散歩に出かけている。年に複数回は桜や菖蒲、紅葉などの行楽に車で出かけており、家族に案内し同行する事もある。また利用者から自分の家を見に行きたい、外食をしたい等の希望があり、個別対応や家族の協力を得て実現させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状況に応じて、支援を行っているが、難しい方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りの希望があれば、可能な限り支援を行う。携帯電話を持っておられる利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の衛生・温度・湿度・換気には細心の注意を払っている。壁面装飾等により、季節感も感じて頂けるようにしている。	ホーム内はクリーム色の壁紙と木目調の扉で統一され、落ち着いた雰囲気である。壁には紅葉やクリスマス、正月飾りなど季節の装飾を行い、季節感を演出している。毎日次亜塩素酸の消毒液で拭き掃除や掃除機掛けを行い、利用者も掃除に参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル配置を工夫し、廊下にもソファや椅子を置き、日向ぼっこを楽しめる様にするなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるまで使用していた馴染みの物をホームでも可能なものは継続して使用して頂き、居心地よく過ごされるよう考慮している。	居室は据付のクローゼットと洗面台があり、入居前に使用していたタンスや机、紙の作品が置かれていた。またマッサージチェアや大きな仏壇が持ち込まれている部屋もある。居室担当職員により整理や衣類入替えなどが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりにて安全確保に努め、日常動作や家事等「できること」「わかること」を見守りつつ支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200809		
法人名	株式会社 ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ケアクオリティゆとりあ		
所在地	静岡県静岡市葵区田町3丁目30-1		
自己評価作成日	令和元年 10月 31日	評価結果市町村受理日	令和元年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・事務所理念を事務スペースに掲示し実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの手伝いや敬老会等への参加、フラダンスボランティアや学生の職場体験の受け入れを行い、馴染みの関係の構築に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者様の状況を報告し、また各種行事への参加が認知症への理解に繋がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、施設の現状や活動の報告をすると共に、参加者からは地域の情報を得たり、介護業界・高齢者問題について情報交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月生活相談員の訪問があり、生活保護の利用者様もいるため、生活支援課職員様の定期的な訪問も行われている。利用者様の近況報告や情報交換により協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」宣言を行い、玄関の施錠はせず自由に出入りできるようにしている。内部研修や外部研修等への参加で、職員全員が共通理解し実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に施設内研修を行い、虐待についての理解を深め、安心して生活を送って頂けるよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等で学んでいるが、機会は多くなく理解度は低いと言わざるを得ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時・改定の際には、ご家族様に十分な説明を行い、不安や疑問を聞き理解や納得に繋げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・面会時・プラン説明の際に意見や要望を伺い、出された意見・要望はカンファレンスで話し合い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時だけではなく、常日頃お互いに意見や疑問を言いやすい関係をつくり、職員の提案などを運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年も定期昇給を倍増し、非常勤のベースアップも行い、人材確保・定着に努めている。資格手当も高く設定し、取得の意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも可能であれば勤務調整して参加してもらい、カンファレンス時に発表の場を設け、本人の自信や知識の共有に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や各種行事に参加し、交流を深め情報交換等を行い、もってサービス向上の一助としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情観察・積極的な声掛けにて傾聴・受容・共感に努め、本人の不安軽減を心掛け、得られた情報はカンファレンス・申し送りにて共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には日常生活状況を伝えながら、家族等の不安・要望の把握に努め、月次報告書により定期的に様子を伝えて関係づくりを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談やプラン説明時に本人や家族等の求めているサービスを見極め、ケアに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ると思っておられる事を見極め、見守りのもと職員と共に生活の中で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月次報告で現状をお伝えし、写真もご覧いただき、面会時には近況報告しながら御家族の気持ちを傾聴し信頼関係の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には今まで使用していた馴染み深い物をお持ち頂き、家族・知人の面会等で関係の継続を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を尊重しながら、関係を把握し孤立することのないよう、時には職員が橋渡しをしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された場合は電話で様子をうかがったり、御家族がホームを訪ねて下さることもあり相談には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング・アセスメントをカンファレンスで実施し、その人なりの生活とは何か？を話し合い利用者様本位のケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等から折に触れ聞き取りを行い、馴染みの暮らし方・生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りを中心に、職員同士の情報共有を図り現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで課題や方向性を話し合い、現状に即したプラン作成に取り組み、スタッフ全員で共有しケアに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・支援日誌・申し送りノート・朝夕の申し送り等で情報を共有し、プランや日々のケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるよう、関係者・職員間でその都度話し合いの場を設けたり、必要に応じてDr・御家族・管理者での会議を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方々や自治会役員の皆様とも交流し、地域資源の把握・活用をはかり御本人の暮らしに資するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、協力医との連携を説明し家族等に納得して頂いた上で受診・往診対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護時に利用者様の健康状態や生活の様子を報告・相談し、指示や意見を聞いています。特変時にも対応してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に出向きDr・Nsと情報交換し、適切な治療と早期の退院受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携のもと、御家族の意向を汲み取りながら、御本人にとって何がベストかをカンファレンスで検討しつつ支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加した職員にはカンファレンスにて発表してもらい、知識等の共有を図っている。緊急時対応については度々訓練・申し合わせをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度防災訓練を実施し、誘導・通報・炊き出し等を訓練している。自治会との協力関係の構築も模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先達であることを認識しつつ、その人の好みや意向を考慮に入れて対応している。共同生活であるのでプライバシーの確保には気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情観察や声掛けに配慮し、思いや希望を表現しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位のケアに取り組み、可能な限り希望に添えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時には好みの服を選んで頂き、意向を伺いながら身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好・季節に配慮し、状態に合わせた食事形態やカロリーに気を付けている。用意・片付けも可能な限り利用者様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を心掛け、特に水分においては必要量を確保できるように個人の状態、習慣も考慮し食事時以外にも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、御本人の状態に合わせ声掛け・確認・一部介助・全介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや排泄表にて、排泄パターンや習慣を類推し、声掛け・誘導・見守り・介助にて自立に向けた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・運動に重点を置き、医療連携の元、服薬にても予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	制約はあるが無理強いはず、なるべく利用者の意向に沿った形での入浴・足浴を目指している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて日中でも自室にて休んでもらったり、夜間帯には質の高い睡眠が取れるように日中の過ごし方に工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方・説明書には目を通し、必要な情報の共有に努め、変更時には観察と医療への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や御家族等との話の中で嗜好や傾向を類推し、楽しみごとや気分転換等の支援を検討実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・季節の花見・地域の催し等には外出支援を行っている。日常的にも毎日は無理だが散歩にお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状況に応じて、支援を行っているが、難しい方もいらっしゃる。不安から少額の現金を常に持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りの希望があれば、可能な限り支援を行う。携帯電話を持っておられる利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の衛生・温度・湿度・換気には細心の注意を払っている。壁面装飾等により、季節感も感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル配置を工夫し、廊下にもソファや椅子を置き、思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使用していた馴染み深い物をお持ち頂き、使い慣れたもので安心して生活して頂く工夫をし、レク等で制作した作品を飾るなどもしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりにて安全確保に努め、トイレ・自室の表示等、安全かつ分かりやすい工夫をしている。		